

令和5年度末の汚水処理人口普及状況について



環境省、農林水産省、国土交通省は、2023年度末時点における全国の汚水処理人口普及状況を合同で調査を行い、その結果を取りまとめました。

全国の汚水処理施設の処理人口は、1億1,614万人となり、この数字を総人口に対する割合でみた汚水処理人口普及率は、93.3%（2022年度末については、92.9%）となりましたが、未だに約830万人が汚水処理施設を利用できない状況です。

この普及状況は、大都市と中小市町村で大きな差があり、特に人口5万人未満の市町村の汚水処理人口普及率は84.0%（2022年度末については、83.4%）と、全国平均からいまだ大きく後れている状況です。

関東地方では、東京都（99.9%）が最も普及率が高く、次いで神奈川県（98.5%）、埼玉県（94.0%）、千葉県（91.2%）、栃木県（89.9%）、茨城県（88.1%）、群馬県（85.0%）という結果でした。

処理人口を各処理施設別にみると、下水道によるものが1億1,280万人（総人口に対する普及率81.4%）、農業集落排水施設等によるものが294万人（同2.4%）、浄化槽によるものが1,177万人（同9.5%）、コミュニティ・プラントによるものが15万人（同0.1%）でした。

当社では、多くの排水項目の分析について長年の実績があり、短納期での対応が可能です。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談下さい。

資料 [2024年8月22日付 環境省報道発表資料](#)

環境検査箇所 野村咲子

